

令和5年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) 検討事項 1) 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員構成の見直しについて (5) その他
日時	令和6年3月22日(金) 午後7時00分 開会 午後7時40分 閉会
場所	ZOOM会議
出席者氏名	大木教久委員長、下里隆史副委員長、加納健司委員、佐藤崇委員 山口哲也委員、小笹貴夫委員、菅原一朗委員、佐藤貴之委員、 榎本浩幸委員、大久保敦子委員 事務局(中沢事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤副院長 兼事務局長、益原診療部長兼患者支援センター所長、山岡看護部 長、高瀬医事課長、江崎患者支援センター担当長、岡野がん相談 専従看護師、大山患者支援センター看護師主査)
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援委員会次第 ・ 資料1-1 紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-2 診療科別紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-3 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 ・ 資料1-4 予約検査の件数表 ・ 資料1-5 患者支援センター相談実績 ・ 資料1-6 地域医療機関と連携した研修会等実績 ・ 資料1-7 登録医救急診察専用回線集計表 ・ 資料2 がん相談支援センター実績報告 ・ 資料3-1 病院別救急車搬送件数の状況 ・ 資料3-2 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況 ・ 資料3-3 循環器ホットライン ・ 資料4-1 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員構成の見直し ・ 資料4-2 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員名簿 ・ 資料4-3 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員会規程 ・ 資料4-4 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員会規程の一部を改正する規程新旧対照表
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

<午後7時00分 開会>

○事務局（益原患者支援センター所長）

皆様こんばんは。委員の皆様におかれましては、お忙しいところ茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより令和5年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開催いたします。委員数10名に対し、本日は今現在、8名の委員にご出席いただいておりますので、委員会が成立いたしますことをご報告いたします。会議に先立ちまして、茅ヶ崎市立病院事業管理者の中沢明紀先生からご挨拶いたします。中沢先生、よろしく願いいたします。

○事務局（中沢事業管理者）

皆様こんばんは。本日は大変お忙しいところ、また年度末にも関わらず、地域医療支援委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。日頃、当院の運営にご協力とご理解を賜っておりますことに、感謝申し上げる次第でございます。今年度の市立病院は、4月に地方公営企業法の全部適用への運営形態の変更、また新型コロナウイルス感染症が5類になったことで診療体制を変更し、また新たな取り組みや充実させた取り組みといたしまして、手術支援ロボットや最新の高精度の放射線治療機器の導入、また救急外来のリニューアルや眼科外来手術室の開設、また、脊椎センター・人工関節センターの開設、さらに今年度の4月からスタートさせる病院経営計画の作成など様々な取り組みを通じて皆さま方、地域医療機関の先生方のご協力や職員の頑張りで入院、外来ともようやくコロナ前の令和元年度にほぼ匹敵するまで回復してきたところでございます。本日の第4回の地域医療支援委員会におきましては、12月までの実績を中心にご説明させていただくこととしておりますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（益原患者支援センター所長）

よろしくお願いいたします。それでは、これより先の議事進行につきましては、大木委員長にお願いしたいと思います。大木委員長よろしくお願いいたします。

○大木委員長

円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。それでは議題に移ります。まず、議題（1）の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

それでは、令和5年4月から令和5年12月の患者支援センター業務実績について、説明させていただきます。担当長の江崎です。よろしくお願いいたします。

資料1-1をご覧ください。

令和5年度 紹介率・逆紹介率の表となります。年度累計の紹介率、逆紹介率をご覧ください。令和5年4月から令和5年12月の紹介率の平均は、69.5%、逆紹介率の平均は、95.5%です。令和4年度の平均と比較して紹介率は、5.5%・逆紹介率9.5%と緩やかな上昇が見られています。地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%以上・逆紹介率40%以上の基準も満たしております。

資料1-2をご覧ください。

令和5年9月と同年4月から12月の累計 診療科別 紹介率・逆紹介率の表です。令和5年4月から令和5年12月の右上にある年度累計の覧をご覧ください。紹介率は、左端の番号22番の放射線診断科が99.7%、19番の眼科が94.8%、8番リウマチ膠原病内科が89.7%と順に高くなっており、また逆紹介率は、24番麻酔科、11番呼吸器外科、7番腎臓内科の順に高くなっています。

資料1-3をご覧ください。

令和5年4月から令和5年12月の累計 紹介元・逆紹介先 医療機関一覧です。紹介元は、医療機関名と紹介患者数、その内の検査件数を表しています。紹介元および逆紹介先医療機関共に、やまもと内科クリニック・藤川整形外科・大木医院の順に多くなっています。令和4年4月～12月と比較すると、左端の数字16番の寒川こどもとアレルギーのクリニックよりの紹介が多かったことから小児感染症が流行したことが要因として考えられます。

資料1-4をご覧ください。

予約検査の件数表です。令和5年4月から令和5年12月の実績です。前年度と比較して増加している検査項目は、R I・マンモグラフィー・腹部エコー・心臓エコー・甲状腺エコー・頸動脈エコー・脳波・ホルダー心電図・筋電図・栄養指導です。C T・M R Iに関しては検査需要が高く推移しています。

土曜日の検査予約につきましては、実績はお配りしておりませんが、口頭での報告をさせていただきます。令和5年4月から12月まで96件の紹介がありました。昨年度と比較すると1件の減少となっています。土曜日の予約検査の取り組みにつきましては、令和元年5月より第2第4土曜日の8:30～12:00に単純C T検査、腹部超音波検査、甲状腺超音波検査の予約を開始しております。令和6年2月10日より頸動脈エコーの予約もできるようになりました。予約枠も少し余裕が見られます。患者さんのご都合等もあるとは思いますが、ご利用いただければと思います。

資料1-5をご覧ください。

令和5年4月から令和5年12月までの、月別 相談延べ件数表です。相談には、看護師と社会福祉士が対応しています。相談対応総数は10,471件で、相談内容の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く3,061件、次に転院に向けての退院相談が2,151件、次に福祉制度の相談が1,264件となっています。コロナ禍以降、在宅を希望される患者さんが増加し、在宅への退院相談が一番多い相談内容となりました。

資料右側の対応方法は電話での相談対応が3,837件と相談件数が多く、前年度と比較して251件減少しました。また対面での相談件数は面談対応が2,429件、IC同席が535件と合計2,964件と前年度と比較して422件の増加となりました。新型コロナウイルス感染症が5類となり、対面での相談が徐々に増加しています。院外関係者とのカンファレンス件数も90件で前年度と比較すると72件の増加となりました。今年度の取り組みとして在宅退院される患者さんを中心にケアマネジャーとの連携を強化する取り組みを行っております。退院前カンファレンスにおいても少しずつ増加し、在宅支援に結びつけられるよう進めていきたいと思っております。

資料1-6をご覧ください。

令和5年度地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。4月から12月までに18回開催いたしました。今年度初めて歯科口腔外科病診連携会を開催することができました。定例開催となるよう調整を図っていきたくと考えております。

資料1-7をご覧ください。

令和5年度の登録医救急診察専用回線の対応件数となります。

対応件数は363件で前年度より113件増加しました。入院になったケースは164件で前年度と比較すると80件の増加となり、入院割合は約45%となりました。今年度は小児感染症の流行が見られた影響により入院患者数が増加したことが考えられます。診療科については、例年通り小児科が最も多く、次に内科一般となっています。科別入院患者数においては小児科が最も多く、次いで消化器内科、循環器内科と呼吸器内科となっています。入電時間は、午前は10時台で午後は15時台が最も多くなっています。医師の交替等により、電話におつなぎするのに時間を要してしまうケースも時に発生しております。問題ケースは改善を図りながら、なるべくお待たせすることなく、ご指定の診療科医師にお繋ぎできるよう努めてまいります。

報告は以上となります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（1）について委員の皆様からご意見ご質問をお伺いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか

○大木委員長

特にないようですので議題（1）は終了したいと思います。いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（1）は以上をもちまして終了といたします。次に議題（2）のがん相談支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（岡野がん相談専従看護師）

がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお

願いたします。

それでは、がん相談支援センター令和5年度4月～12月の業務実績についてご説明いたします。資料2をご覧ください。相談件数は、9ヶ月で延べ925件です。前年度より266件増加しました。1人の患者さんが複数回相談に来られた際は、その回数分カウントされる為、相談件数の増減があります。また、がん相談対応に緩和認定看護師も加わり2名となったことも理由の1つと考えられます。

2)の支援方法は、対面相談が775件・電話相談が150件です。

4)の相談依頼ルートについては、患者ご本人が一番多く433件、医師からの依頼が24件・ご家族が108件、看護師より86件ありました。

5)の相談内容の内訳については、症状・副作用・後遺症647件、不安・精神的苦痛644件、がんの治療について450件、在宅医療151件、ホスピス・緩和ケア66件でした。相談内容は、症状・副作用・後遺症などが一番多くなっています。

一例としては、抗がん剤による手足のしびれが強く、医師からの内服処方に加え、相談員からも生活上の工夫をお伝えしつつ、対応をしていましたが、中々改善が出来ず、どのように医師へ辛い症状を相談すれば良いかを共に考えながら関わりました。また、化学療法認定看護師や薬剤師などと連携を図り患者さんへの対応を行いました。最終的には抗がん剤の効果が少なくなってしまうのではないかと心配しながらも抗がん剤の減量をすることで痺れの軽減を図る事が出来ました。まずはその方のお話をお聞きしながら、その方が解決出来る方法を探して行く様にしています。

今後も引き続きがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえる様に周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題(2)について委員の皆様からご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

私からよろしいでしょうか。先日、2月の29日に市立病院で地域医療支援研修会があり出席しましたが、菅原先生も出席されたと思うのですが、どんな感想をお持ちでしたか。

○菅原委員

症例で病院とリアルにお話できたのは、非常に良かったと思っています。紹介状や電話などというところ以上にお話する機会が少ないので、是非続けていただきたいと思います。また企画をするという話をされていたので、テーマをいろいろ変えてやっていただければと思っています。

○大木委員長

僕も参加したのですが、終わったあと皆さんから話聞いたところ、やはり非常に好評だった。実例での役割では、患者支援センターでの対応のレベルが高く、他病院に比べても高いという評価が多かったです。特に、若い人のがん末期の緩和ケアは難しいので、ああいった形で間に入ってくれる患者支援センターの存在は大きいと思っています。最近非常

に相談者が多くなり、医師からも相談ルートがあるというのは良いという評価が占めていました。症例は、うまくいったケースのみだけだったのですが、うまくいかなかったケースも出していただくと、もっと勉強になるのではないかと思います。次回の研修、是非期待したいと思います。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

ありがとうございます。

○大木委員長

他に何かございますでしょうか。異議なしとのことなので、議題（２）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（３）の救急搬送状況について事務局より説明をお願いします。

○事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題３「救急搬送状況」につきまして、ご説明いたします。医事課長の高瀬でございます。よろしく申し上げます。資料は資料３－１から資料３－３でございます。資料につきましては、画面共有もさせていただきますので、ご都合に応じてご覧ください。

それでは、資料３－１上段の表をご覧ください。

こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。表の右側の年度累計（当月まで）の欄をご覧ください。こちらは、令和５年度（２０２３年度）と前年度の１２月までの合計と割合を表したものです。全体の搬送件数が前年度の１２，０８１件から１２，９６３件に増加していますが、当院への搬送は前年度同時期に比べて減少している傾向に変わりはありませんが、各月の当院への搬送につきましては、６月以降は一番高い割合をキープしている状況です。

当院の搬送件数の減少につきましては、今年度懸案であります４月より常駐の脳神経外科医の配置がないためでございます。口頭での説明で恐縮ですが、脳神経外科に関する救急受入の不応需件数はつきましては、２月までの合計件数が４０５件、月平均約３６．８件となっています。前回の報告では４０件でしたので、若干減っているということがございます。ここで少し明るい話題のご提供となりますが、来年度は脳神経外科医が常勤医師として配置されることとなりました。診療体制については調整中ではございますが、徐々に脳神経外科に関する救急受入が増加することを見込んでいるところです。

下段の表をご覧ください。こちらは診療科別に救急車の受入件数と受け入れたうちの入院患者数を表したものになります。表の数値の詳細につきましては、欄外の注意書きのとおりです。下段の表一番下の入院率をご覧ください。各月とも３０％を超えており、右側の年度累計を見ましても、前年度２７．６％から３６．４２％と８．８ポイント増加しているところです。各診療科の受入数の前年度との比較につきましては、表の右側年度累計（当月まで）にございます。表中９診療科で増加、１０診療科で減少となっています。

全体の受入数の前年度との比較につきましては、前年度４，１７９件から３，７１６件と４６３件減少しているところですが、入院数につきましては、前年度１，１５２件から１，３５２件と２００件増加しています。

続きまして資料３－２をご覧ください。こちらは、令和５年度１２月までの茅ヶ崎市消

防による市立病院への搬送件数と割合を地区別に分類したものでございます。資料、一番下の合計の欄をご覧ください。一番右の27.7%が市立病院に搬送された割合で、前報告時28.4%から0.7ポイント減少しているところです。地区別の前報告時との比較では、口頭でのご報告ですが、鶴嶺地区以外の全地区で減少しているという状況で、茅ヶ崎地区の一番減少率が高く1.3ポイントの減少となっております。12月の茅ヶ崎地区を見ていただくと20.4%となっておりますが、11月が25.2%でしたので、5%下がっているということでございます。資料3-1にお戻りいただきまして、上の段の減った件数はどこへ運ばれたのかというような数字的な分析にはなりません、上の段の12月の部分を見ていただきますと、11月に比べて増えているところが1カ所、茅ヶ崎徳洲会病院がでございます。茅ヶ崎地区に移る要因でございまして、ここが増えたのが原因なのかなという状況でございます。

続きまして資料3-3をご覧ください。「循環器内科HOTLINE」の集計表となります。前回会議で令和5年度集計件数の訂正をお伝えいたしました、同様に令和4年度の数値についても上段及び中段来院者内訳の表のとおり訂正させていただきます。訂正前の数値につきましては、合計でのご案内で件数が6件、うち入院が4件でした。数値の誤りにつきまして申し訳ございませんでした。

令和5年度の「循環器内科HOTLINE」の利用状況ですが、4半期ごとの件数としましては、4月から6月までが12件、7月から9月までが7件、10月から12月が9件とほぼ横ばいの状況です。今年は暖冬ということもあるのでしょうか、そのような傾向が数字に表れていると考えているところです。連携いただいた地域の先生方に感謝申し上げますとともに、引き続きの連携をよろしくお願いいたします。

前回会議で検討中とお伝えいたしました先生方の診療室等の身近な場所にホットラインの連絡先を掲示いただけるような、キャッシュカード大のマグネットシートにつきましては、ただいまデザインに取り掛かっているところでございまして、新年度に配布する準備を進めているところです。説明は以上でございます。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（3）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（3）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（4）の茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員構成の見直しについて事務局より説明をお願いします。

○事務局（益原患者支援センター所長）

それでは、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員構成の見直しについて益原からご説明させていただきます。まず、地域医療支援委員会の設立した経緯でございまして、1番経緯のところをご覧ください。資料4-1になります。

平成24年3月に地域医療支援病院の承認を受け、「登録医制度運営委員会」を発展的に解消し、地域医療支援委員会を設置いたしました。平成28年7月 茅ヶ崎市附属機関設

置条例に基づく附属機関として「茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会」を設置しております。この時に、委員の皆様方を茅ヶ崎医師会長から委員長、茅ヶ崎歯科医師会長を副委員長とし、委員数11名で構成しておりました。また平成30年4月には、委員数を10名、医師会から8名の先生方、歯科医師会の先生、薬剤師会の先生ということにしておりました。

続きまして、2. 地域医療支援委員会の設置根拠および役割になります。地域医療支援病院は、「当該病院に勤務しない学識経験者等をもって主として構成される委員会を当該病院内に設置すること」が医療法施行規則第9条の19第1項に明記されています。委員会は、「地域における医療の確保のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議し、必要に応じて当該病院の管理者に意見を述べるもの」（同第2項）とされています。

3. 地域医療支援委員会の構成員になります。委員会の構成員としては、「当該地域医療支援病院の所在する地域の医療を確保する上で重要な関係を有する者を中心に構成されるべきものであり、例えば地域の医師会等医療関係団体の代表、当該病院が所在する都道府県・市町村の代表、学識経験者等により構成することが適当であるという厚生省健康政策局長通知が出されております。

4. 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の構成員ですが、条例では委員数について15人以下との規定がございます。委員会規程第3条では、医師が組織する団体、歯科医師が組織する団体、薬剤師が組織する団体であって、それぞれ市の区域内に主たる事務所を置くものの代表者としており、現在、医師会の先生方、内科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、産婦人科の先生方、歯科医師会の会長先生、薬剤師会の会長先生の10名となっております。

5. 茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の委員構成の見直しの方向性 地域医療支援病院として10年以上が経過いたしました。医師会、歯科医師会の先生方からも紹介数を順調に増加させていただきまして、紹介率・逆紹介率とも70～80%の水準を維持できるようになりました。医師会からの委員の先生方、非常に数多く出ていただいております、その先生方のご負担の軽減及び国の通知に合わせて、さらに幅広くご意見をいただくために、病院関係者、看護、行政も含めた構成員を見直しをしたいと思います。具体的には、管内の病院長、学識経験者、看護関係の方、保健所、消防本部を加え、医師会からの委員推薦は4名、病院長1名を含むと考えております。委員総数は、歯科医師会・薬剤師会の先生方を含め9人を見込んでおります。

次の資料の4-2をご覧ください。上の段が現在の委員の先生方の構成です。先生方の任期がちょうど丸2年で5月いっぱいということになっておりますので、6月以降は下の段のような構成でしたいと思っております。先日、会長、副会長先生にもご説明に伺いたしました。その後医師会の事務局様から茅ヶ崎医師会から5名ご出席いただけるというご連絡をいただいておりますので、現在その方向で調整を進めております。

次の資料の4-3をご覧ください。茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の規程になりますが、第3条をご覧ください。委員会の委員は、次に掲げる者のうちから病院事業管理者が委嘱する。ということで、(1) 医師が組織する団体であること。(2) 歯科医師が組織する団体。(3) 薬剤師が組織する団体の代表者ということに現在なっております。

次の資料の4-4をご覧ください。こちらの規程を改正いたしまして、改正後左の列に

なります。(4)学識経験を有するもの(5)保健所の職員(6)消防本部の職員を付け加えた規程にしたいと思っております。ご協議よろしく願いいたします。

○大木委員長

説明が終わりました。議題4について委員の皆さんからご意見、ご質問を伺いたと思いますが、いかがですか。

○山口委員

よろしいですか？先日、会長、副会長会にお越し頂いてご説明ありがとうございます。今出ている資料は、医師会から4名なのですが、さっき5名とおっしゃいましたよね。

○事務局(益原患者支援センター所長)

はい。その後事務局の方から医師会から5名の先生にご出席いただけるということでご連絡を頂戴しています。

○山口委員

バランスを考えて、確か1名増やしたのではないかなと思ったのですが。

○事務局(益原患者支援センター所長)

ありがとうございます。5名の方向で調整しております。

○山口委員

理事会にはかけてないのですが、病院の規程の変更で、会議でご了承いただければよろしいのかという判断で、理事の議題にはあげていないのですがよろしいでしょうか。

○大木委員長

いいのではないのでしょうかね。

私からよろしいでしょうか。学識者の看護というのは、訪問看護をお考えなのでしょうか。

○事務局(江崎患者支援センター担当)

横浜市立大学の看護管理の教授をされている先生です。神奈川県看護協会の副会長をされています。

○大木委員長

はい。分かりました。他にありますか。大丈夫でしょうか。医師会から多くの委員が出席する会議は終了という形で、まずは第一段階の紹介・逆紹介を増やすことはある程度、効果が出てきたという結果です。そこで組織体制をかえてみようという方向に向かうのだということで、よろしいでしょうか。

他に質問がなければ、議題4は終了したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○事務局（益原患者支援センター所長）

ありがとうございました。

○大木委員長

次に議題5のその他について委員の皆さま、事務局から何かございますでしょうか。特になければ、これで本日の議題は全て終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。